

平成 30 年度 学校教育自己診断について

○平成 30 年度における質問項目の選定

今年度よりマークシート方式を採用した。昨年度までの質問を精査し、本校の教育活動の現状と課題を再確認した上で見直しをはかった。

保護者、生徒、教職員とも、回答については、A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、判断に困る場合は「未記入」、の 5 種類とした。

○平成 30 年度実施結果について

(1) 集計数

	総数 (回収率)	前年度総数 (回収率)
保護者アンケート	514 (全体の 52%)	664 (全体の 66.5%)
生徒アンケート	981 (全体の 99%)	967 (全体の 97%)
教員アンケート	39 (全体の 65%)	33 (全体の 58%)

(2) 保護者アンケートについて

分析の概要

肯定率の平均は 82.6%で昨年度に比べ 0.8%の減。ただし全体の概要でも触れたように、今年度内容を改訂しているので、平均値における前年度との比較はあまり意味を持たないと考えている。

例年のことだが、未回答（前年度までは「わからない」）の多い項目もめだった。質問 21～34 は全て 100 件以上だった。次年度に向けてよりわかりやすい質問、そして観点を絞ることで項目を減らすことも視野に入れたい。

ア評価が特に高いもの

3 (友達) は例年評価の高い項目であるが、学校生活においては最も重要視すべき項目の一つであろうと考える。友情を大切にしたり、コミュニケーション力に秀でるといった本来本校の生徒が持ち合わせている能力が本校での生活によってより花開いているととらえている。15 (いじめ対策) 10 (人権教育) 20 (倫理道徳教育) については、生徒からも高い評価を得たが、学校教育の根幹をなす項目であり、今後も評価が下がらないよう努力したい。

イ肯定率の増加傾向が顕著なもの

5 (部活動と学習の両立) は本校にとって大きな課題の一つなので、肯定率の増加

は喜ばしいことである。ここ数年部活動のあり方が社会問題となっており、本校でも休養日の設定や活動時間について見直しが進行中である。今後も重点課題としてより改善を進めたい。また 22（生徒会活動）についても、前年度増 8% の高評価を得た。

ウ肯定率の減少傾向が顕著なもの

26（ルマガ）については、緊急時の連絡が遅かったり、登録時の不具合が一定数あったりと、なかなか満足のいく形で提供できなかった。次年度以降の課題としたい。

16（生徒指導の情報発信）については、家庭連絡に関してはこれまでと特に変更したところはないが、HP やルマガなどのより丁寧な発信が求められていると考えている。

エ評価が特に低いもの

特記するほど肯定率の低い項目はなかった。ただし、どの項目にも無記入のものが少なからずある。これらは判断に困った場合や肯定しづらい場合の結果とも考えられるので、今回の結果について高評価を得られた項目についても、気をひきしめて引き続き課題の改善に向けて取り組んでいく必要があると考える。

（3）生徒アンケートについて

分析の概要

肯定率の平均は 77.4%。たいへん高い評価を得たと言えるだろう。前年度よりも数% 上昇しているが、今年度は大幅な改訂をおこなっているので単純な数値比較は意味を持たないと考えている。

ア評価が特に高いもの

14（国際交流）11（人権教育）12（進路指導）はたいへん高い評価を得た。14 については今年度海外から高校生が本校を訪れるなど複数の交流機会があったことが影響していると思われる。11・12 については日々の授業における先生方の取り組みをはじめ、年間計画に基づいた緻密な指導（各種説明会・講演・映画・フィールドワークなど）や本格実施に取り組んでいる「総合的な学習の時間」（人権・国際理解・進路を重点目標としている）などの成果として受け止めて良いようだ。

イ肯定率の増加傾向が顕著なもの

32（各種交流）は上記の通り今年度は多くの機会が提供できたことが大きい。15（ボランティア）はクラブ員による地域活動の取り組みやクラブ清掃（学校外地域）に加え国際ボランティアに関する講演が功を奏したか。23（生徒評価）・33（講習）は教員のさらなる励みにもなろうし、項目にはあがってこなかったが 20（アクティブラーニング）は 2 年続けて 10% 近くの伸び率で、こちらも日ごろの授業改善の努力が評価されたかたちになっている。30（緊急時対応）については、保護者連絡等の課題は残ったが、校内での生徒対応については適切であったと考えて良いようだ。

ウ肯定率の減少傾向が顕著なもの

5% 以上減少した項目は見られなかったが、引き続き気を引き締めてさらなる改善を

目指したい。

エ評価が特に低いもの

肯定率 50%を切る項目は見られなかったが、最も低かったのが 17 (興味深い授業) 59.3%。授業改善の成果は上記 20 以外にも 16 (わかりやすさ) 18 (授業のポイント) などの上昇が見られるが、学問そのものや学ぶ事そのものに対する意義を粘り強く伝える努力も必要だろう。

(4) 教職員アンケートについて

分析の概要

肯定率の平均は 73.8%で前回からは 0.7%の減。ただし教員アンケートについても改訂を行ったため、比較はあまり意味を持たないと考える。総合的に見れば非常に高い数値だといえるが、最高 97%から最低 21.1%まで様々な評価となった。特徴として、教職員の服務規律への認識、授業に対する工夫に関する項目に高評価が目立った。多様化する教職員の業務と働き方改革による労働時間短縮推進との間で、どこかに不十分なところはないか。それを確かめるのが今回の調査の目的の一つであった。いくつかの項目については見直しが必要だと思われるものもあった。今後の課題として位置付けたい。

(5) 筆答部分について

今年度も貴重なご意見を多数いただきました。すべての筆答について教員全員で共有しました。今後の枚方高校の教育活動に役立てていきたいと考えております。ご協力ありがとうございました。

以上